

**自由集会
関連講演会
など**

自由集会案内

いずれも、8月4日（金）17時30分ー20時45分です。

1. 地理情報システム（GIS）は国際保健医療分野に何をもたらすか？

場所：長崎大学熱帯医学研究所大会議室

【紹介文】

地理情報システム（GIS）は、さまざまな分野（都市計画、農業開発、サービス業など）にて応用・発展しており、諸外国では保健医療分野への応用研究が進んでいます。一方、国内の保健医療関係者の間ではまだまだ注目されておらず、諸外国の後塵を拝しています。本自由集会では、地理情報システムが国際保健医療分野で何ができるのか、現状と展望を話し合います。

【進行内容（予定）】

- GIS ,GPS ,RS ,空間統計などの概要紹介
- 解析の一例
- ハードウェアとソフトウェア
- 討論 地理情報システムに何ができるか

【発表者】

安納 住子 神戸大学医学部国際予防医学教室

高木 正洋 長崎大学熱帯医学研究所生物環境分野

谷村 晋 長崎大学熱帯医学研究所社会環境分野

その他追加の可能性あり

2. 国際医療援助の質の向上に向けて

場所：講義棟（1）

【紹介文】

日本の国際緊急援助は、近年軌道に乗りつつある。

従来の派遣自体を目的とするもの、早期の派遣を目的とするものから、質が求められるようになった。

今回、国際緊急援助を行っている各団体の質の向上に向けた取り組みを紹介し、それを基に日本の国際緊急援助全体の在り方について議論する。

【主催者】

小井土 雄一 日本医科大学救急医学教室講師

国井 修 東京大学国際地域保健学講師

近藤 久禎 日本医科大学救急医学教室

3. Safe Motherhood の新しい方向

場所：講義棟（2）

【紹介文】

"Safe motherhood"「安全母親になる」ためには、身体面だけではなく、産む女性が脅かされないという、精神的な安全も保障されなければならない。心身ともに満たされた出産経験から女性は、自分自身や子ども、家族への認識を深めるだけではなく、社会や自然への気づきさえも、育まれることがある。つまり出産は子供の誕生だけではなく、女性も人間として、そして母親としての認識を体得して、新たに生まれなおす契機ともなる。

このような人間的な出産を伝統的に支えてきた日本の開業助産婦による助産ケアの精神と実践が、現在、ブラジル、セアラ州における国際協力プロジェクト・ルスに取り入れられ、大きな成果を上げている。今後、Safe motherhoodを支える、この人間的なマタニティ・ケアの世界的な広がりを期待したい。

【発表者】

三砂 ちづる

羽根田 潔

梅内 拓生

4. 臓器移植がアジア諸国への生活文化へ及ぼす影響について

場所：ポンペ会館

【紹介文】

経済・文化・国際情勢・人間の尊厳を "patient advocacy" の観点から検討する。

【進行形式】

移植に関連したレクチャーと情報交換ののち、グループ討議（オープンエンド）

【内容】

1. 臓器移植の歴史と日本・世界の現状
2. 日本と世界の法的背景
3. 臓器移植と日本医療
4. 心臓移植と日本医療、そして世界の現状
5. 救命救急から、脳死判定、移植への流れの中で
6. 臓器移植のアジアへの影響
7. 臓器売買の現状；インドの事例から
8. 文化を尊重した国際協力の在り方
9. 命の尊厳
10. 次の世代へ伝えること

【主催者及び賛助】

佐伯 日登美

国際保健学生フォーラムメンバー有志

関連講演会のご案内

**8月5日（土）午後
（国際保健医療学会の最終日にあたります）**

1. 長崎大学公開講座（長崎大学熱帯医学研究所主催）

熱帯病研究はいかに人類に貢献できるか

— 人間は個体としてどのように熱帯病と闘うか？ —

日時：8月5日（土）午後4時～6時30分

場所：熱帯医学研究所一階大会議室

講座の概要

大学における「研究活動」は市民にとって「ミステリー」である。

一般に市民は「研究」というものを何か自分自身にすぐに直接役立つもの、功利的なものとして期待する（マスコミの取り上げ方はこれに尽きる）。しかし、時に垣間見る大学のえら～い先生方の仕事は市民にとって「道楽」にしか見えない。

ところが、多くの大学の研究者は心の底では「道楽」にこそ研究活動の醍醐味があると考えている。現実の社会ですぐに役立つような研究に対して、研究者相互の評価は実は高くはない。

このような研究者と市民のあいだの「研究」に対する認識の大きなギャップが「ミステリー」を産み出す原因となっている。

このギャップを少しでも埋めるため、研究者があまり語りたがらない研究の「道楽」の部分をできるだけ市民に伝えることが本講座の目的であり、本年度はその2回目となる。

熱帯医学の研究では、直接的には熱帯病の拡大を防御したり感染者の治療、診断に役立つものとして市民からは期待され、もちろん熱帯医学研究所はその期待に応えるべく努力している。

しかし研究者は一方で、熱帯医学分野に人類の未来を決めるかもしれない「知的資産」を産み出す未知の領域が広がっていることを信じており、そこで「道楽」することは人類の「知的資産」を産み出すパワーの源とも考えている。

本講座では、いわゆるジャルゴン（専門家の間でしか通用しない専門用語）をもてあそぶことなく、自らの研究を自らの言葉で語ることを通して研究の醍醐味を市民と共有し、熱帯医学

研究の意義を共に考える。研究者の「道楽」を道楽のまま終わらせないために、市民の「ミステリー」をミステリーのまま終わらせないために。

講義題目

1. 感染症の発病と防御のメカニズム ー増える白血球は役に立つのかー

教授 中村 三千男

2. 感染症でおこるからだの変化と修復 ーからだを開けてみるー

教授 板倉 英世

3. 感染症の予防・治療 ー賢い予防策ー

教授 永武 毅

受講料

4,500円

当日受付可

2. JICA 研修生、留学生、日本人学生交流会

日時：8月5日（土）18時30分ー20時30分

場所：熱帯医学研究所一階大会議室

オーガナイザー：佐々木 幸男（国際協力事業団、九州国際センター）

交流会の概要：

留学生、学生による研究発表会。

および、交流会。

8月6日（日）午前
（国際保健医療学会終了の翌日にあたります）

ヒバクシャ医療国際協力会（NASHIM）講演会
みんなで考えよう放射線被ばく
— 被爆地長崎から —

日時：8月6日（日）午前10時—12時

場所：長崎原爆資料館ホール

（国際保健医療学会会場より徒歩5分）

1. 放射線被ばくのはなしと実演

宇宙放射線～自然界放射線～原子爆弾被爆～チェルノブイリ
～セミパラチンスク～東海村臨界事故～医療被爆

講師 奥村 寛

講師 山下 俊一

長崎大学医学部原爆後障害医療研究施設教授

「はかるくん」を使って放射線を測定してみよう！

2. 特別講演「東海村で何がおこったか ～臨界事故に学ぶ～」

講師 明石 真貢

放射線医学総合研究所放射線障害診療・情報室長

主催：長崎・ヒバクシャ医療国際協力会（NASHIM）

長崎大学医学部原爆後障害医療研究施設公開セミナー

謝辞

寄付者御芳名（2000年7月10日現在）

（財）化血研 シオノギ製薬 日本ロシュ(株) 武田薬品工業(株) 三共(株)
帝人在宅医療九州(株) バイエル薬品(株) 中外製薬(株) 山之内製薬(株) BML
有製薬(株) 大日本製薬(株) 協和発酵工業(株) 大鵬薬品工業(株) 藤沢薬品工業(株)
三井化学(株) 日研化学(株) ダイナボット(株) 田辺製薬(株) 住友化学工業(株)
アベンティスファーマ(株) 大塚製薬(株) 第一製薬(株) 帝人(株) （財）阪大微生物
病研究会 スミスクライン・ビーチャム製薬(株) 丸石製薬(株) エーザイ(株) 杏林製
薬(株)
日本ワイスタリー(株) 医療法人永敏会楽得内科 （財）日本ポリオ研究所
(株)テクノスズタ 山下医科器械(株) 熱研ウイルスOB会 (株)昭和堂印刷 （順不同）

本学会を開催するにあたり、上記の諸機関、各位に御協賛、ご支援をいただきました。

記して、厚くお礼を申し上げます。

2000年8月

第15回日本国際保健医療学会 会長 五十嵐 章

準備企画委員

大津留 晶 長崎大学医学部付属原爆後障害医療研究施設分子診断研究分野

佐々木 幸男 国際協力事業団・九州国際センター

津田 佳彦 医療法人・雪の聖母会・聖マリア病院

西村 裕一 (財)国際保健医療交流センター

八橋 弘 国立長崎中央病院・臨床研究部

高野 忍 長崎大学医学部学生サークル・熱帯医学研究会

永武 毅 長崎大学熱帯医学研究所・宿主病態解析部門

溝田 勉 長崎大学熱帯医学研究所・環境医学部門

森田 公一 長崎大学熱帯医学研究所・病原体解析部門

長谷部 太 長崎大学熱帯医学研究所・病原体解析部門

嶋田 雅暁 長崎大学熱帯医学研究所・熱帯病資料情報センター